タウンミーティング 2019 実施概要報告

長野県長寿社会開発センター諏訪支部

1. テーマ

いつでも夢を-シニアと高校生で語り合う夢の今昔-

2. 目的

- ①人生 100 年時代といわれるなかでシニア世代の人々が第二の誉生に生きがいを見つけ出して生きていってもらう。
- ②異世代交流により、シニアの人生観を語り継ぐ。
- ③今後の地域の産業・社会構造のあり方を模索する。

3. 主 催

(公財) 長野県長寿社会開発センター諏訪支部

4. 日時・場所

令和元年8月5日(金)14時00分~16時00分 諏訪市交流広場「すわっチャオ」(上諏訪駅前アーク諏訪3F)

5. 参加者

長野県シニア大諏訪学部生(1年31名、2年31名)

諏訪シニア賛助会会員(7名)

諏訪圏域高校生(9校・32名)

高校職員(6名)

一般市民、行政・社協職員(10名)

6. パネリスト

市川純章氏(公立諏訪東京理科大学工学部教授)

小口良平氏(世界一周 自転車冒険家)

藤田文子氏(修道者・国際協力 NGO アジアとアフリカの子ども達に教育をおくる会代表理事)

7. ファシリテーター

内山二郎長野県長寿社会開発センター理事長

8. 形式

シニア大生と高校生による旗揚げ方式会場ディスカッション

9. 次 第

- (1) 開会
- (2) はじめに
- (3) パネリスト紹介
- (4) パネリストの来し方と"夢"について
- (5) 旗揚げアンケート方式ディスカッション
- (6) パネリストのコメント
- (7) まとめ
- (8) 閉会

10. パネリストプロフィール

市川純章さんプロフィール

■夢遍歴プロフィール

1969年 埼玉県に生まれる

1981年 埼玉県入間市立豊岡中学校に入学

4月友人宅でパソコンと出会う/プログラミングの勉強を始める/翌年1月パソコンを購入

1984年 埼玉県立所沢高校に入学

プログラミングの研究を続ける/電子回路との組み合わせにも没頭する

1988年 東京理科大学工学部機械工学科に入学/同大学大学院進学/群ロボットに関する研究に従事

1998年 同大学博士(工学)取得

学位論文「群ロボットシステムにおける群知能の発現特性に関する研究」

2002年 諏訪東京理科大学の開学時に合わせて着任

同大学機械システムデザイン工学科講師/小型人型ロボット等の開発に着手

2007年 諏訪産業集積センター (SIARC) 設立

諏訪地域の企業と大学とをつなぎ、地域産業の活性化を目指す

2018年 公立諏訪東京理科大学へ改組。情報応用工学科

ロボット技術の応用として、AI, IoT の利活用促進のための教育研究に従事

■地域・教育関連役職

茅野市社会教育委員/茅野市博物館協議会委員/茅野市豊平小学校学校評議員/諏訪実業高校学校評議 委員/どんぐりネットワーク茅野幹事(茅野市子育て教育)/社会人基礎力協議会理事など

■本日の私の主張(キーワード)

*思っていることを口にすると実現する気がする。チャンスは他者からもたらされる。返事は 2 種類。 「はい」か「Yes」がポイントだと思う。

*楽しいこと、夢中になれること、意義の見いだせること。これらが幸福を感じるポイントのようです。

*AI ってなんだと思いますか。基本的に人間の経験を統計的に処理するものです。誰にも分からないものは AI にも分からないのです。

*テクノロジーの進歩はいつも古い技術・産業を淘汰してきました。昔の方が良かったとするなら、それはどうしてだと思いますか? テクノロジーのおかげで人は平等に近づけていると思います。

*同じことは繰り返せない。例えば精密の諏訪と言われているようですが、それはいつからの話でしょうか。同じことを繰り返すのは難しい。実世界は、常に条件が変わっていくので。

*続けるために努力する。制約があるから工夫する。さて、全知全能について考えてみました。そしたら「無」になりました。なぜでしょう。

*やっぱり教育は大切。人類はなぜ発展できたのか。未来を予測できるから。そして自らの経験を他者に 伝えられるから。

小口良平さんプロフィール

■夢遍歴プロフィール

1980年 長野県岡谷市に生まれる

2003年 東洋大学法学部企業法学科卒業

在学中に自転車による世界一周旅行を夢見る

2003年 スターツ株式会社資産運用部入社

学生時代に取得した宅地建物取引士とファイナンシャルプランナーの資格を使える建設会社 に勤務

スターツ株式会社在職中の5年間で夢の資金1,000万円を作る

2007年 スターツ株式会社資産運用部退職

同年 日本一周自転車旅(2008年まで)

2009年 世界一周自転車旅 (2016年まで)

157 ヶ国、155,502km。日本における自転車冒険では1位の国数の記録を樹立(世界では推定3位)

2017年 地域おこし型サイクリングガイド団体「諏訪湖八ヶ岳自転車活用推進協議会」(スワヤツサイクル) 設立

2019年 長野県サイクルツーリズム推進協議会副代表就任

2020年までにはカフェ&ゲストハウスを開き、自転車冒険塾を開講予定

さらなる次の夢は南極、月への自転車旅

■職業

サイクルツーリズムアドバイザー/サイクリングガイド/スピーカー (講演会業)/文筆業

■本日の私の主張(キーワード)

*モットー:

「他人と比べない生き方」をする/「続けることの大切さ」/「夢は発信することから始まる」 そして、「百聞は一見に如かず。百見は一験に如かず! まずは知ることから始めよう! 若さの特権は チャレンジすることにあり!」

*「男子一事成せば足る!」世界一周自転車旅を通して以上のことを学びました。

*世界一周をして得たものは、島国である日本では得づらい多様性の素晴らしさ。故郷を離れたからこそ見えた、地元の美しさ、良さ。

*次なる私の夢は、故郷で夢を叶える人の風土(土壌)つくりをすることです。地域のため、子供たちのために尽力することが、私が世界で受けた恩返しになると思っています。

*夢は決して終わらない。ひとつの夢が終わるころ、次のスタートラインが自然と用意される。私の現在の生き方そのものが夢の途上であります。人生の財産は人。夢を発信し続けることで集まってきた人たちが最高の財産。

*夢の本意は発信したことで半分は成功。

藤田文子さんプロフィール

■夢遍歴プロフィール

1936年 岡山市に生まれる

1949年 広島県福山暁の星女子中学校に入学

1952年 福山暁の星女子高等学校に入学

このころ外交官になろうと思った。パリ留学と慶應大学進学を父が反対。

1955年 ノートルダム清心女子大学文学部入学 このころ理想的な相手と結婚したいと思っていた。

1959年 ノートルダム清心女子大学文学部卒業

同年 カトリック援助修道会入会

> 「一人の夫を愛するようにすべての人々を愛し、キリストのために本当の自由を求めて貧し さを選びたい」

1979 年 国際協力 NGO「アジアとアフリカの子ども達に教育をおくる会」(エスナック教育里親グルー プ)設立。代表理事

1980年 フランス・テゼで「日本にアシュラムをつくりたい」と直感する。

1984年 援助修道会を退会しマラナタ宣教契約共同体創設

2000年 豪雨による崖崩れで新百合ヶ丘の家とエスナックの事務所を失い、諏訪郡富士見町乙事の山林 にアシュラム(神への一心の祈りにより精神の修養をする場)の施設を建てて移住。エスナック の事務所も富士見に移し、1980年からの夢だったアシュラムへの一歩を踏み出す。

2018年 エスナックの事務所を東京都国立市に移転

■本日の私の主張 (キーワード)

*文明は人を楽にし、楽しませてくれるが、人の最も大切な心と、人と人との心のつながりを少しずつ蝕 んでいくように思える。文化は日本でも欧米でも神社やお寺、教会の歴史を学べば分かるように、人々が 心からの祈りを込めた感謝の奉仕、献身の生活から生まれたものではなかろうか。

*日本で当たり前になっている多くの事柄に、もう一度感謝できる心を取り戻したい。そのために、わず かなものにあれほどまで感謝できる、東南アジアから中近東、アフリカの貧しい国々の子どもたちとな んとかして日本の多くの人々に交流をもってほしい。

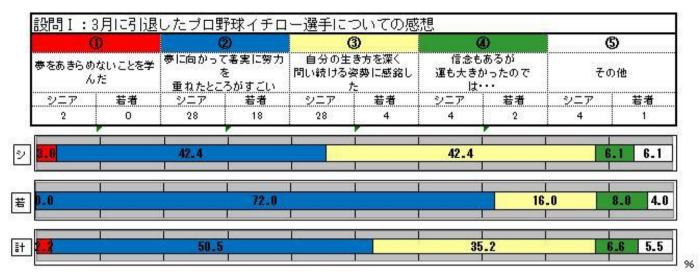
*人並な生活が美徳であるかのように考え、ユニークな行動をすれば変わり者とみなされ、白眼視され る社会、自己主張をすれば嫌われるような気がして、意見は言わないでおくほうが無難と引き下がる人 が少なくない日本は、夢の実現を可能にしたり、国際的な人を多く育成することが困難ではなかろうか。 *夢見る人が倦まず、無私の心、すなわち本当の愛の心をもって、人々、特に困窮に苦しむ人、貧しい

人々の切実な要求を祈り求めるとき、夢は常に実現するようです。

*ニューヨークの9・11事件の年にエチオピアで干ばつのために1日に300万人もの人が死亡したこと を知っていた人が日本で何人ただろうか?

*支援金は施しではなく、兄弟愛としてコミュニケーションの手段だと分かって、人として為すべきも のだと心得ている人がどれだけいるだろうか?

11. 設問と会場の声



<その他>

お疲れさまでしたの一言です(シニア)

特別と感じないほど偉大 (シニア)

あまり好きじゃない… (シニア)

緑:努力もすごいけど環境が整っていたこともある (若者)

市川:やったこととベースの考えが素晴らしい…自分で切り開けることは社会になかなか無い。チャンスは他者から与えられる、めぐり合う可能性、自分で切り開けることなどなかなか無いのではないか

青: 私は努力は好きじゃないけれど、努力したところ がすごい(若者)

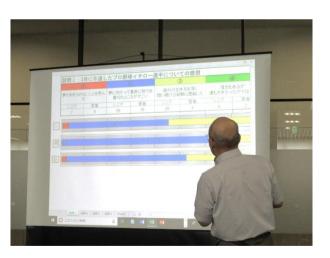
青:考え方が素晴らしい(シニア)

青:自分にないものを持っていた(シニア)

緑:運も事実。チャンスをいかにものにするか努力したことが素晴らしい(シニア)

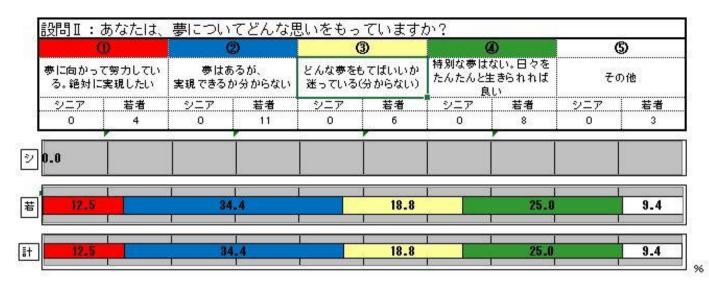
小口: 私は白。最初はイチローも初心者だったはず。 直観力というのか…。夢は形を変えていく、発信の大 切さ、続けながら発信することで夢を実現できる。水 をもらうのも発信、一歩一歩。**T**シャツに夢を書いて





いただくことから、自分のモチベーションに変わっていった。他者からのエネルギーを自分のものに。言 霊ではなく書霊で発信。

藤田:青。諦めたら終わり…目標を正しく理解することが原点。ずっと持ち続けることの大切さを実感してほしい。



※若者のみ

白: 今探しています、いろんなところに参加して探しています

白:やりたいことが沢山あって選べない…寿司屋、ピザ屋…

<シニア世代の感想>

既存の考えが変化する時代、叶えられるように支えたい

私なら緑。日々淡々と過ごしてきました。夢は一つではないし、限ることもない。好奇心を持って努力することが若者の特権ですね

緑:だいたいの方向で見つかればいい

黄:まだ考えてはいない、葛藤しています

青:多すぎて何から始めたらいいか… 美容師、外国人と交流、キャリアウーマン(無理)

市川:多くの学生は就職が夢になっている。そのためには単位という思考になっていて寂しい。面接ではいるいろ語るけれど、してきたことがない場合が多い。私は興味を持ったからプログラムをやった。だが父は PC 買ったのは失敗だったと語ったけれど、やってみた。教育が丁寧になっている。宿題が毎日出る。宿題が終わればそれでいい。作業的学習になっていることの弊害、暗記中心ではたかがしれている。目標を持つことの大切さ。思ったら行動。やってきたことを振り返ればおのずと開けてくるはず。



小口:WINWINで一緒にやる。学生時代は自分に自信がなかった。でも海外では比較することが無意味に感じられた。比較が自己嫌悪を生む。海外の若者…アフリカはゴミを拾って生活する。彼らは夢がない。大人が夢を語っていなかった。おとなが夢を語ることが子どもに夢をもたらす

藤田: フランス語で感謝を示す言葉は私 に恵を与えたことに感謝。神に感謝を返 したい。世界に役立つ、世界の一員であ ることの大切さを意識してほしい

あきらめなければ叶う		② 若い時には、夢があっ た・・・		③ 叶わない夢もある		④ 今、夢に向かって 努力している		⑤ その他	
11	0	8	0	15	0	19	0	6	0
li .	1			1	<u>a</u>	1			-
18	.6	13.6		25.4			32.2		10.2
					10	1		1	
	ľ	,							
0.0			8						
	i i	1				1			
18	.6	13.6		25.4			32.2		10.2

※シニアのみ

白:夢とは…人生を豊かにするもの。途中で変わってもいい。若い時は仕事などもいろいろ考える、今を考えることも大切

白:日々淡々と… 改めて考えたことはなかったけれど、 その時々にいろいろ考えた。その時を充実

白:ずっと持ちづづけるもの。希望は目の前のこと

白:特別なものはなかったかれどおぼろげなイメージはあった。分岐点はいろいろあったと思うが悔いはありません

白:日々の生活にも努力が必要で、その過程が大切。アフリカの子の「生きていたい」との印象が残っている。

緑:マラソンと自転車。諏訪湖マラソン年代別優勝しました!

黄:夢はあくまで夢。その人なりの力量もあって実現できないことが多い

緑:小さい夢… まずは体重を!! 三日坊主にならないように! **緑**:ある日突然みんなにお礼を言って旅立ちたいと思います。

若者から:

シニアには3であってほしい。叶うことは重要ではなく努力の糧だと思います。

市川:夢ということの定義、個人的なことと社会的使命、社会で生活できる能力、大学では職業に向けた 専門的、役割分担、高校はその役割を考える時期、個人と社会、双方の夢があるが、最近はその部分が希 薄。個人的なエゴと社会の夢のふたつある。作業的学習からの脱却、自分の自己実現を通じて社会との関 わりを考えてほしい

小口:個人的には南極大陸。もうひとつは地域貢献。続けてきたことに対する評価の先に社会的貢献へ。 ゴールの次は次のスタート

藤田:夢は自分で組み立てられるものではない。小さいころから確信があればその精神を貫く夢はいつまでもつづく。



0		0		③ 日々の生活を大切にして、 出来ることをしたい		@ 悔いのない人生を 全うしたい		⑤ その他	
この地域で仕事をして 夢を叶えたい		グローバルに 自分の夢を実現したい							
シニア	若者	シニア	若者	シニア	若者	シニア	若者	シニア	若者
3	3	0	2	47	15	9	8	5	4
								B 5.55 10	
4-10-0	È	1	E	73.4		i		14.1	7.8
		Į,	1	Į,	Į I		*		1.0.5
9.4 6.3		46-9				25.0			12-5
			1	64-6				17.7	9.4

白:バリバリ働きたい。場所はどこでもいい(若者)

白:夢はいろいろ。部活頑張るなど、社会的なことでは憧れの職業は特にない。サラリーマンに対してあまりピンとこない(若者)

白:夢はないが、やって後悔するのはいや。やりたいと 思ったらやる人生でありたい。型にはまらずに(若者)

白: グローバルのところが少ないのが残念(若者)

白: 興味ある方向に進みたい。最終的に人のためになればいい

白:デイサービスで仕事をしている。この地域で過ごし

ている高齢者のためにこの諏訪の高齢者のために一肌脱ごうと決めました(シニア)

縁:あきらめなければ叶うをモットーに生きたい(シニア)

黄:**今まで**いろいろやってきたので、日々の生活を大切に(シニア)

黄:シニア世代で介護福祉士、頑張りたい(シニア)

黄:病気を経験、日々を大切に(若者)

白:まだ未来はイメージできていない(若者)黄:日々の生活で楽しみを見つけたい(若者)

市川:人生の目的とは…幸せになること。成功と幸福の相関関係…幸福が先行する happiness advantage。 視野が広がり、幸福が成功をつかむ。周りの見方は関係ない。幸福は本人の認識の問題。幸福のポイントは楽しいことする>夢中になる>意義の見いだせること…人との関わり、愛着の高まり。夢はツール。 日々淡々は妥当。

小口:選ぶなら3つ。友達が欲しかった。特殊なことをやったら友達ができるのではないか? 昔は歯車になりたくないと思ったけれど、今は社会の役割となることの大切さを感じる

藤田:日々を何のために、が大切。



12. パネリストまとめの一言

市川 純章 氏 人生の目的は幸せになること

小口 良平 氏 日々感謝 夢は神が与えた最高の財産=人

藤田 文子 氏 自分を中心に夢を考えて努力するより、世界社会を中心に考えることが大切 感謝の祈りが必要